

みかんの歴史

岐阜県岐阜市立茜部小学校

六年 目黒 真衣

私のおばあちゃんの家には、みかんの木があります。その木からみかんができたなら、そのみかんを、花屋をやっている私のうちで、毎年売っています。今年も売る季せつがやってきて、袋づめにしているとき、疑問がわきました。どんな疑問かというと、

「なぜ葉つきで売らなきゃいけないのだろう？」

ということですよ。みかんは、普通葉無しで売られています。そのはずが、私の家で売るみかんはどれも、とても小ぶりで、どれにもかならず葉がついています。私は、

「葉があると食べにくいし、小ぶりだと、おいしくないのに」

と、思いました。そんな、あまり美味しくないはずのみかんは、どんどん売れていきます。とつても不思議でした。その疑問を、解決するため、葉つきみかんについてくわしく調べることになりました。葉つきみかんは、正月のかざりにも使われることをまず、知りました。

だからかがみもちにも、のっているのか！と、おどろきました。なぜ正月に？という疑問もわいてきました。そのりゆうは、みかんは青い実が冬になって赤味を帯び黄色に熟した後落ちずに枝についたまま、翌夏には緑色に実が戻ります。一度実がなると、4〜5年以上落下しないそうです。こうして、何代もの「だいたい」が枝についたまま、新しい実を加えながらひとつの木になっていることで、健康長寿の家庭・家族に見立て家系代々の長寿はん栄をねがってきたそうです。私はみかんはふだん、「おいしい」という感じようしかもったことがなくて、こんな深い意味があつて、今へと受けつがれる存在だと知り、とてもおどろきました。健康長寿、長寿はん栄という大切なながいをいつもねがわれている、葉つきみかんは、とても大事なものだし、これからも受けついでいかなければいけないと思いました。

みかんは、食べることだけでなく、昔から、人々の幸せ・願いをかなえるものとしても活やくしている事が分かりました。これからも、みかん売りの手伝いをしていきたいと思えました。